

図書館通信

最上校図書委員会
No.27 2月10日



2月図書館企画 バレンタイン特集

「いろいろな気持ちの伝え方

本で読み解く！」



『天国までの卒業49日間』 櫻井千姫著

榊への想いを隠していた稜歩だったが、堂々と自分の気持ちを伝える琉衣の姿を見て、自分も後悔のないように生きたいと思うようになる。卒業の日が近づく中で、ついに稜歩は榊へ想いを告げようとする。心震える命の物語、ついに完結！



『さよなら、灰色の世界』 丸井とまと著

自分とは真逆で、意志が強く、意見をはっきりと言う良が苦手だった楓。しかし、良は「どう見られるかより、好きな自分でいればいい」と言ってくれた。良と関わる中で、楓は自分の色を取り戻していく。



『死にゆく僕が、君に嫌いだと告げるまで』 加賀美真也著

「嫌いだよ」誰よりも愛おしい存在を守るために優太は嘘をつく。だが、嘘をついていたのは優太だけではなく。「聞いて。私はまだそこにいる」訪れる別れのと看、優太は天音の真意を知ることになる。



『君が永遠の星空に消えても』 いぬじゅん著

入院している恋人・壱星のために写真を撮る高2の萌奈。いつか写真の場所にふたりで行こうと約束するが、その直後彼は帰らぬ人となってしまふ。萌奈は、流星群が奇跡を運ぶという言い伝えを知り「どうかもう一度だけ会いたい」と願う。すると壱星が元気な姿で戻ってきた。けれど、壱星のよみがえりにはリミットがあると知った。二度目のさよならの瞬間が迫る中、萌奈が見つけたふたりの再会した本当の意味とは？



『夜に溶けたいと願う君へ』 音はつき著

同じクラスの瓦井睦と家出中に偶然出会う。学校でも浮いた存在の彼と隠れて会ううち、色葉は次第にいい子を演じていた自分に気づく。家にも学校にも居場所がない色葉に、睦は「苦しかったら逃げたらい」と背中を押してくれた。

『死神の助手はじめました。』 こがらし輪音著

交通事故で意識が戻らないままの彼氏リュースケ。死神からの交換条件を受け入れ、シオリはさまざまな事情を抱えた魂と向き合い成仏させていく。しかしそこにはシオリと彼らを繋げるある真実が隠されていた。

『妖怪の遺書、あつめてます』 岡田遥著

妖怪の遺書。それは妖が遺した未練が形として現世に残ったもの。様々な妖が散り際に何を欲し何を願ったのかを、遺書から紐解くあやかし奇譚集。

『神様の絆創膏』 村瀬健著

東京は浅草に建つ、小さくも美しい日和神社には、ある伝説が残っている。心に悩みを抱えた彼らは、神社と猫がとりもつ不思議な縁によって、心の傷を癒やし、幸せを見つけていく。

※5分後シリーズ最新刊入荷！



『5分後に幸せなハッピーエンド』

最高の結末が待っている。

じんわり心温まるハッピーエンドの作品

『5分後に不幸なバッドエンド』

こんなの最低！

救われない結末ばかりの作品

※リクエストに答え、購入しました！

『小説・夏目友人帳』

『小説・夏目友人帳

たまゆらの家』

『小説・夏目友人帳

うつせみに結ぶ』

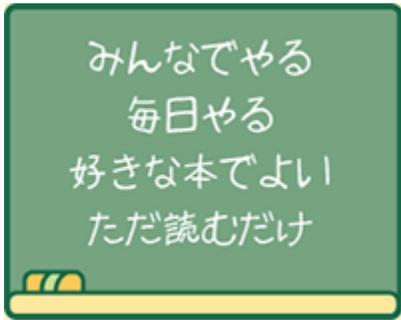


朝読書にオススメの最新刊図書！

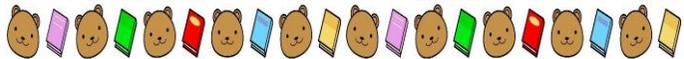


第三回 朝読書が始まります！

朝読書の4原則



期間 2月20日(月)～3月6日(月)
時間 8時20分～8時30分(10分間)
※朝読書記録カードに、記入しましょう。
※雑誌やマンガ以外、読みましょう。
※本は前もって準備しておきましょう。



『ラブカは静かに弓を持つ』 安壇美緒著

武器はチェロ。潜入先は音楽教室。傷を抱えた美しき潜入調査員の孤独な闘いが今、始まる。心震える、スパイ×音楽小説！

『嫌いなら呼ぶなよ』 綿矢りさ著

「一応、暴力だろ。石でも言葉でも嫌悪でも」。妻の親友の家に招かれた僕。だが突然僕の行動をめぐってミニ裁判が始まり、心に潜む明るすぎる闇に迫る。

『川のほとりに立つ者は』 寺地はるな著

恋人の松木が怪我をして意識が戻らないと病院から連絡を受ける。松木の部屋を訪れた清瀬は、彼が隠していたノートを見つけたことで、恋人が自分に隠していた秘密を少しずつ知ることになる。

『私のことだま漂流記』 山田詠美著

積み重なった記憶の結晶は、やがて言葉として紡がれる。小説家という生き物の魂の航海をたどる本格自伝小説。私は、この自伝めいた話を書き進めながら、自分の根と葉にさまざまな影響を及ぼした言霊の正体を探っていこうと思う。

『ジャクソンひとり』 安堂ホセ著

着ていたTシャツに隠されたコードから過激な動画が流出し、職場で嫌疑をかけられたジャクソンは3人の男に出会う。痛快な知恵で生き抜く若者たちの鮮烈なる逆襲劇！



『種もしかけもない暮らし』 鳩見すた著

こんにちは、豆苗です。二人暮らしのマジシャン姉妹の部屋で育てられています。そんな姉妹の笑い癒しと美味しいご飯が彩る、ゆるくて楽しい毎日を豆苗は(収穫されるまで)見守りたいと思います。

『骨灰』 冲方丁著

東京の地下には地獄が眠っている。進化し続ける異才が放つ新時代のホラー。

『書楼弔堂』 京極夏彦著

叔(さて)、本日はどのようなご本をご所望でしょうか？ 日露戦争の足音が聞こえる激動の時代に、本と人の繋がりを見つめなおす。

『名探偵のままでいて』 小西マサテル著

小学校の校長だった祖父は、七十一歳となり、レビー小体型認知症を患い、介護を受けながら暮らしていた。孫娘の楓が身の回りの謎について話して聞かせると、祖父の知性は生き生きと動きを取り戻すのだった！

『祝祭のハングマン』 中山七里著

法律が裁けないのなら、他の誰かが始末する。司法を超えた復讐の代行。それが〈私刑執行人(ハングマン)〉現代版「必殺」、ここに誕生！

『令和その他のレイワにおける健全な反逆に関する架空六法』 新川帆立著

通称：令和反逆六法！ 六つのレイワ、六つの架空法律で、現行法と現実世界にサイドキック。痛烈で愉快で洗練された、仕掛けだらけのリーガルSF短篇集。

『つぎはぐ、さんかく』 菰野江名著

まもなく24歳になる主人公のヒロは、小さな惣菜屋「△(さんかく)」を1歳上の兄・晴太(はるた)と営みながら、中学3年生の弟・蒼(あお)と3人で暮らしている。つつましくも穏やかな生活を送っている彼らだが、実はそれぞれに複雑な事情を抱えながら、ひとつ屋根の下で暮らしているのだった。

